

あの影と性質は同じものです

そうしてその色彩を有した方の影は見る者の位置に従つて動きませんが、灰色の影は見る者の位置に依つて變ることは有りません、ただ太陽の地置によつて、太陽が東にあるときは西に、太陽が西にあるときは東にその位置を變じます、(福岡縣嘉穂園田正樂生)

關西洋畫界通信 (一)

紫 舟 生

沈滞し切つた關西の洋畫界も、近來時勢の進運に連れて、稍活氣を呈して來た様である、報告の材料も少くない、予はこれから、ボツ／＼通信を始める事にしやう、例に依つて順序も、統一もない、只見たまゝ聞いた儘を、拙い筆の向ふまに／＼、書き付けて行く事にする。

ミズキ會水彩畫展覽會を觀る、豫てから噂に聞いて楽しんで居たミズキ會展覽會が、愈々二月二十四日に、京都俱樂部で開かれた、東京と異つて減多に洋畫展覽會を見る事の來ない、京都で而かも水彩畫ばかりの展覽會！予は胸を躍らしつゝ、足も空に駆け付けた。出品者拾二氏、大小合して約八十點、展覽會と云ふものに飢えた眼には、皆取り／＼に面白からぬものはない、抑もミズキ會とは、京都に於ける唯一の洋畫研究所たる、關西美術院の青年畫家中、水彩畫を遣る人々を中心として、組織さ

れた會である、但しこの會員の多くは、油繪の餘暇に、水彩畫を描く人達で、専門に水彩の筆を取つて居る人は、不同舎出身の吉田眞里氏のみである、吉田氏は實に京都に於ける唯一の水彩畫家である。

夫れは扱て置き、頭の新しい青年畫家の、責任ある眞面目な出品斗りとして、予は多大の敬意を拂ひつゝ、幾度も見て歩いた未熟なる吾等が批評などは、僭越の沙汰であるが、只自らの特に好きだと思つたのを、報告しよう。河合先生の「小豆島スケッチ」三點は別として太田二郎氏の「八瀬秋」は、小品ながらその潤澤な豊富な筆致が、畫面に溢れて、如何にも心地よいものであつた、予は場中でこの繪が一番好きであつた、國枝金藏氏の「秋の曇り日」「春の夕日」も亦氏獨特の綿密な、そして街氣のない研究的態度がよく表はれて、乍毎度敬服した、青木精一郎氏の「おくつき」も懐かしい感じに富んだ繪であつた、吉田眞里氏は相變らず大作が澤山出來て居た、予は之の内でも最も「お地藏様」を面白く見た、「高い處から」「赤い山」なども今でも頭に殘つて居る繪であつた、氏の作品には、何時も潑刺たる筆致に、巧にバステルを混用してある、この行き方が、氏の特色であると共に、又欠點となる事があるかも知れない、二神徹也氏の諸作も、太平洋畫會の藤島英輔氏に似た筆致の、可成努力的な繪であつた、この外前川千帆氏の自畫木版は、甚だ佳趣あるものであつた、かくて予は充分の刺戟を得て、會場を辭した、水彩畫斗りの展覽會にして斯くの如く内容の充實した展覽會を見たの

は、實に生れて初めてであつた、予は水彩畫界の爲め、この異彩あるミズキ會が益々發展する事を私かに祈つて止まないのである。

日本水彩畫會關西支部の復興、豫て事情の爲め休會中であつた關西支部は、この度復興の機運に會し、伏見の岡本氏等主唱者となり、再び研究を開始する事となつた、河合先生を始め、鹿子木、都鳥其他當地の諸先生は、益々確實に當支部の爲めに、賛助指導の勞を取らるゝ事となつた、二月某日藤田紫舟宅に於て、當地の春鳥會員相會し、復興協議會を開いた結果、愈三月から開始する事に決した、孰れ詳細の規定等は「みづみ」紙上に發表する積りであるが、今度の改訂規定には、欠席者の爲めに通信批評の制も出來て、間接に講師の指導を受ける便利も出來たのであるから、成るべく關西地方に於ける同好者の入會を希望する。(三月十日)

新年會の前後 — 下

ス エ

晝の支度をして歸つて來た時には、もう澤山の人が下の畫室に詰めかけて居ました。

二階へ上ると(歡樂の鬼)のけいこをやつてゐて、O君がそれを直してゐました。

O君は一日の暇を得て、見物がてら手傳ひに來てくれたのです豫定の一時にはどうせ始まるまいとは思つて居ましたが、二時も過ぎて大體の順備は出來ましたがまだ始める事が出來ません

でした。それはかねて頼んで置いた髪屋が來なかつた爲めなのです三時近くなりました、まだ髪屋が來ません。然し御客様はもう會場にすつかりつまつてしまつて、みんな余興の始まるのを待つて居られます。

二階から開會をうながす拍手が聞えます。

御客様係りのY君やM君からはまだか、一まだかときいそくされました。私達も全く氣が氣ぢやありませんでした。

でもう窮したあげく、鬘のいらない大久保連の喜劇から先にやつて其間に(歡樂の鬼)の仕度をして居たら、そのうちには來るだらうと云ふので、兎も角も始める事になりました。第一はハーマニカ、ソロです。其間に大久保連の仕度をするのですが、大久保連は一人も自分で化粧が出來ないといふので、芝居氣のあるO君や私は扮装掛を云ひつかりました。

其中に二階に拍子が聞えました。あゝ開會のだなと考へながら私はZ君の顔にお白粉をつけました。

ハーマニカ・ソロ——曲藝——ハーマニカ・ソロ——喜劇(五圓札)

——だんだん番數もすゝみました。髪屋も來ました。

(五圓札)が終り。S君のこしらへが出來ると、呼物の(歡樂の鬼)でした。その間に私は次の(老いたる旅人の使女)の粧をして置かなければなりません。だれかに手傳つてもらふと思つたけれど、誰も彼も二階へ行つてしまつて、残つたのは(老いたる旅人)に出入る人々ばかりでした。私はおぼつかなくも一人で化粧に取りかゝりました。